

富士の民話 あれこれ

大淵地区八王子本町にある八王子神社は、地域の皆さんから「はちおつあん」と呼ばれ親しまれています。今回は、この八王子神社にまつわる話を紹介します。

曾比奈の 八王子神社

昔、大淵の曾比奈に牛や馬の商売をしている人がいました。ある日、商いの帰りに八王子というところで金の仏像を買いました。そして家の床の間に飾り、毎朝毎晩拝みました。すると、なすことすべてがうまくいき、村一番の金持ちになりました。

ある晩、夢の中にその金仏があらわれて「自分だけ金持ちになるのはよくない。みんなが幸せになれるようにしなさい」と戒めました。そこで八つのかまを重ねて中に仏像を入れ、上からかまでふたをして地中に埋めました。その上にモミの木を植え、村の神様として社殿を建てて八王子神社と名づけました。

それからは、村じゅうの作物もよく実り、みんなの暮らしも楽になりました。

あるとき、よその村人が「そんなばかことがあるか」と、八王子神社の前を馬に乗って威張って通りました。すると突然大地がグラグラと揺れて突風が吹き、黒雲がにわか天を覆って雷が鳴り、大雨が降りました。馬は驚いて暴れ、村人は馬から落ちて死んでしまいました。ふびんに思った人々は、死骸を馬と一緒に神社の西に埋め、馬頭観音として祭りしました。



昭和三十年代ごろまで水不足で困っていた大淵地区では、八王子神社の近くにある八王子ヶ池の水を生活用水に利用していました。そのため、八王子神社は水の恵みを下さるありがたい神社ということで、大淵村の氏神様として祭られていました。

八王子神社では、昔から毎年二月二十一日にお祭りが開かれています。昭和四十年代ごろまでは青年団が踊りや演芸を行ったり、露店がたくさん並んだり大変にぎやかでした。よく親せきや友達も泊まりに来ましたね。お客さん接待用に「はちおつあん貯金」といって積み立てていたくらいです(笑)。近ごろは寂しくなってきましたが、このお祭りを後世に伝えるため、八王子本町・一・二丁目の三町内を挙げて盛り上げていきたいと思っています。



八王子神社氏子総代
岩間 務さん (大淵)

こちら編集室

昨年の4月に編集室に配属され、パソコンやカメラも先輩たちの指導を受けながら勉強してきましたが、3人目の子を授かり、編集や取材以外の仕事に携わることが多くなりました。2月初めに産休に入らせていただき、本当に周りの人たちには迷惑のかけっ放しで申

し訳なく思っています。三児の母となり、育児も家事も今まで以上に大変になりますが、のんきな夫の多大なる協力を期待しつつ、仕事に復帰したときには、その分頑張りたいと思います。
(富士市の少子化対策に積極的に協力する女子職員)

人口 238,859人 (前月比+141)
男 118,867人 (+77)
女 119,992人 (+64)
世帯 79,251世帯 (+44) 1月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

